

# 下水道や排水溝用のトンネル

トンネル掘削工事大手の機動建設工業は、下水道など直径3メートル程度のトンネルを半径10メートルの急な曲線でも自動的に掘り進むことができた工法を開発した。長さを通常の三分の一程度に短くした埋設管を使い、新た

に開発した特殊な継ぎ手で連結しながら、掘削するの  
が特徴。立て坑を設けなくても工事できるため、地上  
で交通渋滞などを引き起こさなくて済むほか、工期の  
短縮も可能になる。

# 急な曲線でも自動掘削

## 新開発の「アルティミット工法」

は、トンネルを掘る推進管と土との  
摩擦を抑える「滑剤」を自動的に注  
入する装置を使うことで、通常の十  
倍にあたる約1キロを連続掘削でき  
る。曲線部では特殊な継ぎ手を使っ  
て約十度ずつ埋設管をカーブさせ  
る。

## 機動建設

地の交通を妨げる要因にならないと  
している。雨水対策の排水溝や共同  
溝など市街地の地下トンネル工事、  
電線の地中化工事などで利用しやす  
いとみている。

従来、トンネル掘削の工事は曲線

部と直線部を別個に立て坑を設置し  
て進める場合が多い。しかし、立て  
坑を設置すると地上での交通渋滞を  
招くといった問題を引き起こすこと  
が多い。新工法では片側一車線の交  
差点の地下でもカーブしながらトン  
ネルを掘ることができると、市街

# 立て坑不要 市街で活用

通信回線などを通す共同溝や水害  
対策の排水溝など都市部のトンネル  
工事には、直径2メートルを超える大口徑  
のトンネルが増えている。公共事業  
が削減される一方、都市再生などで  
新しい工事の需要が拡大するとみら  
れているため、機動建設は都市部の  
インフラ工事の需要増が期待できると  
判断。地方自治体や電力会社向け  
などに売り込み、年間約四十億円の  
受注を獲得したい考え。